

小鹿野会場質疑応答

令和 7 年 1 0 月 2 3 日（木） 1 9 時

住民

まず始めに答申では 51% の値上げ、全国でも例を見ないような値上げ幅の答申が出された。36.1% まで圧縮されたという提案だが、首長含め広域化した頃の方々がほとんどいなくなって、何人か当時いた方もいると思うが、広域化するときは広域化すれば国の補助金が 333 億円の工事費のうち 111 億円が出て、こんな有利な事業は無いというふうに言って広域化をされた。小鹿野町では懸念の声があり、結果としては広域化した。広域化したこと自体に対する評価はどういうふうにされているのか。これは成功したのか失敗だったのか、そこを伺いたい。

水道局

この 10 年間様々な面での評価ができると思う。人材については合併して最初は 52 人、それぞれ個々にやっていた時代と今で研修ややり方を統一化してスリム化したことが一つメリットになる。維持管理の面についてもシステム等も統一したので費用も減っている。人件費も当初からは減っている。広域化の一番のメリットとして、国の補助金を活用したことだと思う。本来は自助努力で行わなければならない配水管の布設替やポンプの交換、それらをほとんど 3 分の 1 の補助金、そして出資金を活用して工事をするのができたのは大変大きいことだと思う。小鹿野町についてもかなり大きな工事をしている。元々小鹿野町は統合前には 7 千万円ほどの工事しかしていない。それが広域化後は 1 年に 3 億 5 千万ほどの工事を 10 年間行っている。それも国の補助金を使い、市町の出資債を使って工事しており、だいぶ小鹿野町の配水管等もきれいになってきたところ。やはり広域化というのは大きなスケールメリットがあったと評価する。最終的には今年 10 年目となっているので、広域化が終わったあとに最終評価をしたいと考えている。

住民

私とは見解が少し違うが、当初は秩父のような谷や山があるところで広域化すればいずれ破綻をするという論議があったが、国の肝いりで広域化することに決まった。伺いたいのは、先ほどの説明でも給水人口も大幅に減ってくる、給水量も減ってくる、これは広域化する前から分かり切っていたこと。人口や給水量が減ってくるから経営が苦しくなると説明されたが、最初から分かっていたことなので、それは理由にならないのではないかと思います。すでに国立社会保障・人口問題研究所の試算がすでにこの時には出ていて、秩父郡市の人口が大幅に減ってくるということは分かっていたが広域化した。住民側からはいずれは事業が破綻するのではないかと懸念があったが広域化した。その結果今回の大幅な料金改定になるが、最初から人口や給水量が減るということは想定されていたことではないか。

水道局

おっしゃる通り。当初から人口減や給水量の減は見えていた。そのために広域化

をしたということ。小鹿野町独自で行うより、広域化したことにより値上がり幅の抑制となる。そのような形で今までご説明申し上げてきた。統合時にご説明した当時の資料を前面のスライドで示すが、小鹿野町の人口減少が多い傾向であるなか、かかる費用は増大することになる。それを皆で負担していくことで、上り幅が低くなる原理である。広域化はこれをメリットとしている。広域化当初の資料で示している数字で推移してきている。ここの算出では、小鹿野町は476円、統合するより倍の数字を想定していた。広域化のスケールメリットはあったと私たちは考えている。人口減・給水量の減は避けられない問題である。これらをどのように乗り切っていくか、そのためには未来にツケを残さないことが大事だと考える。今までやらなかった配水管の更新をしっかりとやっていって、負の財産を残さないようにしていく事が私たちの役目だと思う。

住民

先ほど示した資料について。前回も話したが、新秩父ミュージアムパーク配水施設に送るためのポンプ類は2倍以上の経費が掛かっている。つまり、この算定基礎が崩れてきている。それにも関わらず、算定した物で小鹿野町が経費かかかると話している。この数字を出されたが、根底が崩れている中、また出して来ることは失礼と思う。広域の皆様は町民に向けて付度いただくような水道事業を行ってもらいたい。これが基本姿勢でお話する。水道事業は大変とのことであるが、我々年金受給者も大変である。説明では、料金収入を増やしていくとのことであるが、私たちはどのように増やせば良いのか。支出が増えて家計が厳しい。町も苦しくて助けることも出来ない状況。私たちの気持ちを汲んでいない状況の予算書がある。職員の防寒着のクリーニング代が計上されている。こういったことで経営努力をしているのか。このような状況は、自分たちには思いやりを使っているが、私たちには思いやりがない。説明資料の4ページで水道の施設を支える人数が減少するとあるが、単純に考えれば、別所浄水場か橋立浄水場を廃止して1個にすれば支える金額は半分になるがそのような提案はないのか。小鹿野浄水場があれば吉田の浄水場を廃止できる。しかしながら、そのようなことは聞いてくれない。つまり、町民に寄り添い付度した水道事業を行っていただきたい。私は値上げ断固反対である。少しでも皆様が身を削っている事をお示し出来て、やむを得ないなという状態になるまでは反対する。今は見られない。

水道局

ありがとうございます。ご意見は参考としていただく。

森理事

ご意見ありがとうございます。水道事業は色々問題を抱えていることはご承知のとおりであり、また皆様の生活が厳しいという事も私は承知をしている。特に年金だけで生活されている方は大変厳しい。年金が上がらず物価だけ上がる状況。このような問題は市町だけではなかなか解決できない問題であるので、国の大きな力で解決していただくことが大事だと考える。それと併せて、水道事業の職員

も努力して、身近な所から見直してことは必要なこと。ご意見を拝聴して、水道職員も頑張っていくという事であるのでご理解賜りたい。

住民

説明を聞いて、工事が多いなというのが第一印象。小鹿野町の実情をあまりにも知らなさすぎる。町は人口減を何とかしようと考えている。小鹿野町は山間地に小さな浄水場がある。これは残してほしい。広域化によって私たちの負担が大きすぎる。51%でびっくり。36.1%でも高い。私たちは水道料金を払うだけではなく他の料金も払っている。年金生活者が多い。そのような中、綺麗事を話し淡々としている。町民の実情を知らなさすぎる。災害時の対応と言うが、小鹿野では今まで行政に携わってきた人の実績がある。地域に浄水場を残してほしい。災害時に送水がストップしたら水が入ってこないのではないかと。先ほど分散化の話があったが、それぞれの地域に残していかないと。能登半島が良い例である。本当に町民の事を考えたらこんな事業を計画的に進めていくことは反対である。浄水場を残してほしい。年金生活者が払えなくなったらどうするのか。生活の命の水である。小鹿野町には湧いている水がたくさんある。浄水場は残してほしい。そして値上げは反対である。

水道局

山間地の水道について、資料 22 ページで新たな給水方式の検討とあるが、可搬式の設備を煤川に本年度導入をしている。小さい浄水場については、集中して管理する事は難しい。分散型を取り入れていかなければならない。ただし、小鹿野浄水場の範囲については、集中型で別所より送った方式が 50 年後を見据えた時に、こちらの方が安いという選択をさせてもらっている。

また、生活が大変との話については、私たちも承知している。生活の中で物価高の状況で、水道料金を上げることは大変心苦しく思っている。しかし、今料金を上げないとこれからの世代、子供たちにツケを残していくことになる。小鹿野町の水道施設や管路は古くなっているが直さないと、今後残した浄水場も使えなくなってしまう。使うためにはお金をかけていかないと次々と壊れていく。これは、皆様方はお気づきにならない。なぜなら、毎日普通に水が出るからである。この普通に水が出るために我々は努力している。お金をかけないとこれ以上を維持することは出来ない。子供や孫たちのため今努力しなければならない。料金は高くなりますが、値上がり幅は約 1 人、1 日 14.4 円です。14.4 円を皆様方にお願ひしてまいりたい。ただ、本当に生活が困難な方については、生活保護など福祉の問題になってくるので町にご相談いただければ。また水道局では料金の分割納入などの相談も承っている。今回の料金改定についてご理解賜りたい。

森理事

今回は平成 28 年度から本年度まで 10 カ年は非常に大きな投資を行っている。現在は先倒しというような感じで、50 年先を見通して無理をしている状況である。しかしながら、今後は投資の圧縮をして平準化し料金への跳ね返りを少なくすると

いう事が大きな使命だと考える。工事が多いというご意見については、そのような部分がある事をご理解いただきたい。将来に向けての先行投資という意味でこの事業は進めさせていただければ。今後は事業の圧縮、平準化を理事会でも発言をしっかりしていきたいと考える。

住民

説明資料の 22 ページを見て涙が出た。友人が倉尾や三田川の奥に住んでいる。その方達が運搬送水と聞いたら何ということだと思う。自分達で作っている近くの水がおいしいと言っている。山間地の人はそのような水を大事にしている。町長も見たり聞いたりしてほしい。

森理事

山間地域は沢の水を使っていることや水道を使わないで節約していることは承知している。町も補助金などで生活用水を守るという事をやっている。運搬送水については仮定の話であると思っている。煤川の可搬式もあくまで例である。有事の際はこのような送水はある。

住民

別所から送るルートについて、私は他の自治体に友人がたくさんいるが、馬鹿な事をやっているのだ。と聞く。私はパブリックコメントで意見をしたが、そこで、別所浄水場から信濃石まで 10 キロを 16 億 2 千万、減圧調整池で 1 億 2,000 万、第一ポンプ場が 5 億 5,000 万、第二ポンプ場が 10 億 300 万、配水池が 14 億 1,982 万ということ。小鹿野高区配水池へのポンプアップが 3 億 5,926 万、別所から小鹿野まで持ってくる費用が 48 億 9,908 万円ということで約 50 億である。パブリックコメントの答えは、「廃止か存続について検討した結果導き出された経済的かつ将来にわたって持続可能な計画と考えている」とのことであるが、このような言葉が出るという事は根拠となる数字があると思うので後で教えてもらいたい。また、国庫補助金について、25～27 億の工事が出来ないで残っているとのことで、1 市 4 町の首長が県に要望に行ったとの事であるが、その結果を聞いていない。また、今回は費用対効果の面から計画の見直しした部分もあった。当時、小鹿野へ送水しない方が安く済むのではと広域議会でも小鹿野の議員が何度も発言していたが広域の水道局はちゃんとした数字を出さなかった。当時から費用対効果を検討していれば、理にかなった浄水場は残されたのではないかなと思うがどのように考えるか。

水道局

小鹿野浄水場を存続させる場合と広域化した場合の費用対効果について。まず、現在は労務費や資材費が大変高騰している。広域化当時に出した数字と変わってきている。今回も試算しているが、小鹿野浄水場存続のために更新した場合は 71 億円。それに対して広域化で 38 億 9,000 万円。およそ 39 億円。差は 32 億円。32 億円統合の効果があつたと考える。小鹿野浄水場が存続させた場合に職員等人件費は計算していないため、実際の差はもっと開く。

森理事	国への要望については、8月19日に国土交通省への要望を1市4町の首長で行っている。特に今年度の補助金の内示率が低かった。100%にしてもらうようお願いをしてきた。国土交通省も頑張るとの話ではあるが、まだ分らない状況。
住民	小鹿野浄水場更新の70億というのはどのように出したのか。
水道局	本日持ってきている資料で説明する。前方のスライドを見ていただくと、近年の資材費の高騰の度合を国が示している。労務費も同様に平成28年度から比較すると10年で相当上がってきている。このように外的要因などから事業費が高騰する傾向であり、当時の金額とは乖離してしまっていることは事実。 水道局は予定したすべての事業を行っていない状況である。それは、後に送れるものは送って、見直しをかけることもしておりますので、まずは必要な事業を10年間で実施している。そこは町と調整しながら進めさせていただいている。
住民	資料の5ページにある財政シミュレーションについては、一般会計からの高料金対策補助は見込んでいないとのことであるが、実際には見込んでいる訳ですよ。このような書き方をされているのは、各自治体の予算が通過していないからなのか。この表を見ると赤字で仕方ないと思ってしまう。むしろグラフは高料金対策補助を見込んでいるという形で表を作れば、36.1%に上げた時の形が見えてくるのではないかと。これが1点目。次に水道料金体系の話で、県内55事業体あるうち基本料金を別立てにしている料金体系は55のうちどのくらいあるのか。これが2点目。3点目に、36.1%の値上げを実際した場合には、県内事業体でどの水準にあたるのか。
水道局	5ページの財政シミュレーションについて、令和3年度の改定時に高料金対策補助として組合市町が令和7年度まで負担していただく協定を結んでいる。令和8年度以降のシミュレーションはそれを反映させた形となっている。令和6年度に広域統合後初の赤字決算を計上している。これは、人口減少や費用の増大が影響している。その後令和8年度以降についても、一般会計繰入金が入ったとしても、残念ながら赤字決算の見込みである。
住民	そうではなく、資料の書き方の問題を意見している。「補助は見込んでおりません」ではなく、「見込んでおります」という表現で良いのでは。実際に各市町の首長は出すと言っているわけなので。だからその所をしっかりと伝えるべきと思う。
水道局	同額を入れた場合のシミュレーションも後日HP上で掲載するようにすることで良

いか。

住民

一般会計からの繰入れなしでは運営出来ないと思っている。もっと一般会計からの繰入れを増やして料金改定率を下げる、あるいは改定しないという事も必要であるとする。

水道局

おっしゃるように、一般会計からの繰入れが入れば改定率が圧縮されることは事実である。今回、お配りした資料の「水道カルテ」をご覧ください。ここでは、水道事業は独立採算が基本である中、料金回収率を100%以上にするの他に、耐震化率、管路の更新などを国土交通省が比較して作成されている。水道カルテからも判るように、秩父広域は一番悪い所にある。水道料金は現在は一般会計から貰っており自助努力が足りないという位置づけを国からはされている。そのような状況で一般会計からさらに頼ることもなかなか出来ない状況である。ただ、秩父地域ではそれではやっていけない部分もある。国も水道料金のあり方を検討しているようで、地域の格差を問題視している部分もある。今後一般会計からの繰り出しに対して国もあり方について変わってくるかもしれないので、注視してまいりたい。

水道局

次に基本水量制についての回答。少量使用者への公平を保つために基本水量制の廃止を進めている。県内で料金を見直している団体で基本水量制を廃止する団体が多い。

そして、36.1%の料金改定後の県内での位置は県内一高い水準となる。

住民

55ある事業体のうち基本水量制を採用している事業体の数は。

水道局

資料を持ち合わせていないため後日、HPにて回答する。

住民

遠くへ送水すると、発がん性物質のトリハロメタンが発生する可能性が高いという。距離が長くなると、リスクが高くなることについて見解を求める。

2点目、小鹿野浄水場を存続させた場合の試算について算定基礎を公表いただけるのか。3点目、小鹿野浄水場を管理する人件費も含める旨について。町の財政担当の見解は職員の雇用の経済効果は町にとっても大きいとのこと、単に職員が多いという事で良くない、減らすと良いという考え方はいかがなものか？

水道局

まずトリハロメタンについて回答する。国の基準で毎年検査をしている。できるだけ末端で採水し検査し、HPで公表している。すべて国の基準内であり、どこの浄水場系も公表している。

次に職員の減の件について、水道料金算定を考えた場合には職員の人件費も関連

する。料金を低く抑える場合は人件費もどのように抑制するかを考えなくてはならない。ただ、社会全体、総体的に考えた場合はそのような考え方もあるかと思う。

次に、積算の根拠について、わかりやすい形で HP に掲載させてもらうことでよいのか。

住民

算定の基礎を公開すると独り歩きしてしまい、それが正しいものに見えてしまうので、先ずは、私たちに教えていただき、納得する説明をいただけないでしょうかという質問。

水道局

今回、水道料金の改定についてのお話をさせてもらっている。広域化についての質問については詳細の資料を持ち合わせていない。まずは水道局にお越しいただいた際にお伝えする形でよいか。

住民

10 年前に噂の東京マガジンという番組で小鹿野浄水場の工事費用は 31 億円と水道局がテレビで言った数字。先ほど 71 億とのことであるが、別所浄水場はおがの浄水場の 4 倍処理している規模であるが、別所浄水場の更新費用はどのくらいになるのか。

水道局

別所浄水場関連全体を更新する費用の算出は出ていない。施設は徐々に悪い所を直す形で設計を組んでいる。また、テレビの発言の件は当時を知る人が居なく、資料を遡って確認する必要がある。先ほども申し上げたが、労務単価や資材が高騰しているので一概に比較は出来ないのご理解いただきたい。

- 以上 -